

# 兵庫県立 考古博物館 NEWS



Vol. 5

Hyogo Prefectural  
Museum of  
Archaeology



2010 Spring - Summer



Photo: 竪穴住居の復元

## —平成 22 年—

- 特別展「戦国時代の守護 山名氏の城と戦い」…………… 2
- 企画展「夏休み・考古学ナゾとき教室」…………… 4
- 学芸員が選ぶ、私のイチオシ館藏品  
「子持勾玉(雨流遺跡出土)」…………… 4
- 雲部車塚古墳の研究…………… 5
- 古代山陽道の駅家を調べる  
「長坂寺遺跡の探査」…………… 5
- 幼児向け体験プログラムを開発!  
紙芝居と「やよいごっこ」…………… 6
- 家族で楽しめる「考古博イベント」  
前半のイベント、目玉はこれだ!…………… 7

特別展

# 戦国時代の守護 山名氏の城と戦い

但馬の守護であった山名氏は、応仁・文明の乱で山名宗全（持豊）が西軍の主将として活躍するなど、室町幕府屈指の有力守護でした。今回の展覧会では、戦乱の時代を乗り切るために戦い続けた守護・山名氏の実像に、城や館からの出土品や絵画・文書などゆかりの品々から迫ります。

## ◆山名氏と但馬◆

但馬は応安5（1372）年に山名師義が守護となって以降、山名氏惣領家の本拠であり、山名氏にゆかりの品々が残されています。新温泉町楞厳寺に伝えられる山名時熙画像は、山名氏当主の唯一の肖像であり、県指定文化財となっています（今回は複製を展示）。山名氏で最も著名な人物である山名宗全は、その生涯の大半を京都で過ごしましたが、出石神社へ納めた自筆の願文が社家に伝えられており、但馬と宗全のゆかりの深さを伝えています。また国宝東寺百合文書の中に、宗全からの礼状が納められており、京都の政界で活躍していた頃の様子があがります。



此隅山城と宮内堀脇遺跡（豊岡市）

上級武士の暮らしぶりを知るうえで貴重な資料が出土しました。今回、この“戦国時代のタイムカプセル”から出土した資料の全容を初めて公開します。

出土品の中には中国（明）でつくられた青花磁器、青磁などの輸入陶磁器がたくさんあり、国産の陶器も越前焼や瀬戸・美濃など、遠隔地から運ばれたものが見られます。また兜鍬形台や刀、鎌なども出土しており、ここが戦いを日常とした武士の館であることを物語っています。



山名宗全願文（個人蔵・豊岡市指定文化財）  
写真提供：豊岡市教育委員会



陶磁器（宮内堀脇遺跡・当館蔵）

## ◆山名氏の城と城下◆

山名氏が15世紀末から本拠としたのは、豊岡市出石町の此隅山城であり、城の麓には山名氏の館を中心とした守護所が営まれていました。兵庫県教育委員会では1995年から1999年にかけて、守護所の推定地（宮内堀脇遺跡）の調査を行い、15世紀末から16世紀後半にかけての武家屋敷群を発見しています。屋敷の堀の中などから、戦国時代の



兜鍬形台（宮内堀脇遺跡・当館蔵）

